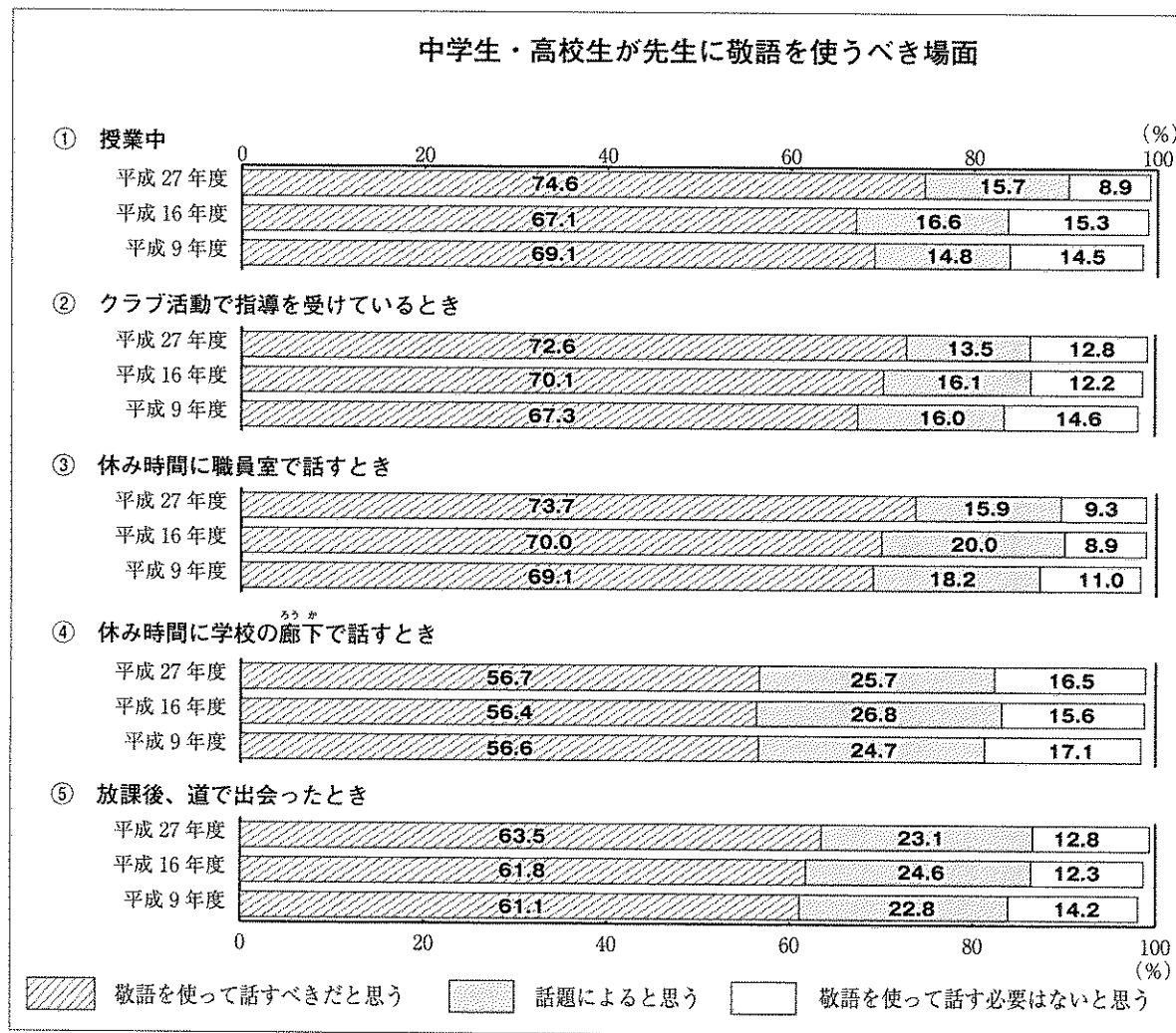


【一】次は、全国の十六歳以上の男女を対象に実施した「国語に関する世論調査」の結果の一部をグラフにしたものです。「中学生・高校生が担任の先生に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか」という質問に対する三回分の調査結果が示されています。よく見て後の問いに答えなさい。



（平成 27 年度『国語に関する世論調査』の結果の概要）による）

- 1 -

(1) このグラフから読み取れることとして適当でないものを、次の中から選びなさい。

ア 場面にかかわらず、敬語を使って話すべきだと考える人の割合は、平成 27 年度の調査結果が最も高くなっている。

イ 平成 27 年度の調査結果で、話題によらず敬語を使って話すべきだと考える人の割合が最も高かったのは、「授業中」である。

ウ いずれの年度の調査結果においても、休み時間に話す時の二つを比べると、「休み時間に学校の廊下で話すとき」より「休み時間に職員室で話すとき」のほうが、敬語を使って話すべきだとする人の割合が高い。

エ 平成 9 年度の調査では、「クラブ活動で指導を受けているとき」よりも「休み時間に職員室で話すとき」のほうが敬語を使って話すべきだと思うと答えた人の割合が高かったが、平成 27 年度の調査結果で逆転した。

(2) いずれの年度の調査結果においても、「休み時間に学校の廊下で話すとき」より「放課後、道で会ったとき」のほうが敬語を使って話すべきだと思う人の割合が高いのはなぜだと思いますか。あなたの考えを書きなさい。

- 2 -

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

駅伝の魅力を知り、高校から本格的に陸上を始めた歩は、一学年上の畑谷さんの助けを得て陸上部に入部した。キャプテンの南原さんや同学年の栞、圧倒的な才能を持つ瑞希など、陸上部の仲間とともに夏の合宿に参加している。

夕方、食事の前に一人で走りに出かけた。

砂浜でのランニングで消耗したので、疲れを抜く為に爽快感のある練習がしたかった。

その日は、今夏一番の猛暑とかで、日が傾き始める時間になっても暑かった。ヒゲラシの鳴き声がシャワーのように降ってくる山道を、歩は一人で走っていた。

瞬く間に大汗が噴き出してきた。爽快なところか、**ヨケイ**にどんよりとする。

やがて、樹木が途切れ、舗装された道路へと出る。崖下の路肩にバス停があり、すぐ傍に水が湧き出していた。岩の間からパイプが突き出て、水が流れ落ちている。手ですくうと、綺麗な湧き水だ。その水で顔を洗い、汗を拭き取った後、ベンチに座って呼吸を整えた。

西側の空が赤い。見事な夕焼けだ。眺めるうちに太陽が雲の中に隠れ、空には複雑な模様が描き出された。

今日は練習の最後に三〇〇メートル走を皆でやったが、それも歩には関係なかった。トラックに入るなりストップウォッチを持たされ、瑞希の千メートルごとのタイムを測っていた。

最初の千メートルの通過タイムは三分十秒を切っており、あの南原さんが置いて行かれていた。最後はペースが落ちたが、瑞希は南原さんと同時にゴールインした。

タイムは九分三十六秒。

練習をしていない期間があったにもかかわらず、南原さんと勝負できるスピードを保っていたのが驚異的だった。

歩が読み上げるタイムをバインダーに書き込んでいた高瀬先生は「はは、ははは……。凄いね」と言っただけ、暫く口を開けていた。

十一分を切った程度で喜んでいる自分とは、格が違う。いや、比べるのもおこがましい。

悔しいとか、負けたくないとか。

そんな気力すら萎えさせる、圧倒的な力の差だ。

ふいに派手なクラクションを鳴らしながら、バスが急カーブから姿を現した。何気なく時刻表を見る。こんな時間から駅へと向かう人もいないのか、六時半の最終便だった。

目の前にバスが止まり、後部ドアが開く。

「あ、乗りません」と言いながら、慌ててベンチから離れる。だが、中は高速バスのような豪華な内装で、思わず目を奪われる。クーラーで冷やされた空気が流れ出してきた、歩の体を包んだ。

——もし、このままバスに乗って山を下りたら、南原さんや畑谷さんは心配してくれるだろうか……。

ドクンと心臓が波打った。

——え？ 何をやろうとしてるん？

気が付くと、歩はバスに向かって一歩踏み出していた。② 自分の中で何かが切り替わり、制御できない。

バスに乗ってしまったら、自分は二度とみじめな思いをせずに済む。誰かと比べて落ち込む事もなくなる。一人で砂浜を走らされたり、孤独で永遠に続く拷問とも思えるような練習も——。

ステップに片足をかける。そこで足が止まる。体が動かない。

本当にいいの？

逃げてないか？

恥を忍んで通いつめ、ようやく入部を許されたというのに。

（こないだから何度か見に来てた新人生よね？ 髪、切ったんだ。かわいいっ）

畑谷さんの笑顔が浮かんだ。

駄目だ。

そんな事したら、畑谷さんに嫌われる。皆も二度と口をきいてくれなくなるだろう。嫌われたくない。

「やっぱ、……いいです」

一歩下がった途端、目の前でドアが閉まり、排気ガスを撒き散らしながらバスが去った。

体は小刻みに震え、頭の中は真っ白だった。

見送ったバスが、やがて山陰に消えた。

——あれは一体何やったんやろう？

よく考えたら、こんな山の停留所に、あんな豪華なバスが停まる事したいおかしかった。

た。

狐に化かされたような気分になり、急に怖くなる。

③その時、辺りの景色が、灰色のベールをかけたように暗くなっているのに気付いた。外灯もなく、木々を作る薄墨色の影のせい、道も狭くなったように見える。

山は時間帯によって姿を変える。

——どうしよう……。

先程、駆け下りてきた山道はさらに暗く、一人で入り込むのが怖いぐらいだ。

国道から登ろうかと思つたが、バスを待っている間、車一台、人一人、通らなかつた。山を登る途中にはトンネルもあり、傍にお地藏さんが立っているのが、行きのバスの窓から見えた。

嫌だ。もつと怖い。

スマホも圏外になつていて。

背筋が寒くなる。完全に日が暮れる前に宿舎に戻らないと、ここに取り残される。

恐る恐る、山道へと分け入る。

道の両端から虫の音が聞こえ、時折、ガサゴソと生き物が立てる音がする。生い茂つた草が作る暗がり、都会のそれとは違つて何が潜んでいるか分からない。

④急ぎたてるように、ヒグラシが激しく鳴いている。

なるべく左右を見ないようにして、道の真ん中を行くものの、少し上ただけで足が凍んだ。

目の前を鬱蒼とした枝に阻まれ、後じさりしてしまう。今にも暗がりから、得体の知れないものが飛び出してきそうだった。

——駄目。こんなとこ一人でおれん。

その時、下の方から激しい息づかいと足音が聞こえてきた。歩は身を翻して山道を駆け下りた。「青少年自然の家」で合宿中の誰かが走っているのだ。「すみません、すみません」と叫びながら、必死に国道へと引き返した。

だが、ようやく国道まで戻ったものの、人の姿はなかった。

「だ、誰かー。今、走つて行った人ー！ 何処ですかー？」

大声で呼びかけながら周りを見た。薄暗くて、辺りの様子がよく見えない。

歩は動きを止めた。

誰かが湧き水の傍に蹲り、シューズの紐を解いていたからだ。

——な、南原さん？

シューズを脱ぐと、南原さんは水で脚を洗い始めた。つるつるとして、筋肉で盛り上

がつた太い腿。中長距離の選手なら喉から手が出るほど欲しい、ぴしりと引き締まつた細いふくらはぎ。几帳面な性格らしく、傍に置いたタオルはきちんと畳まれている。

じつと見ていると、南原さんが歩に気付いた。そして、手招きされた。

——え、私の事？

左右を見回しても誰もいない。

緊張のあまり、すぐには動けなかつた。

相手は名実ともにエース。港ヶ丘高校の顔。いや、福岡県、九州地区を代表する選手だ。雲の上の人で、口をきくのさえ憚られるような相手。もちろん、今までだつて喋つた事はない。挨拶しても、無言で会釈を返される程度だ。

その人が自分と呼んでいるのだ。

傍に寄つたが、南原さんは何かを話すのでもなく、脇に置いたタオルを手に取り、濡れた足を拭き始めた。

「お、お一人ですか？」

声が聞こえなかつたのか、南原さんは無言で手と腕を洗い始めた。⑤いつの間にかヒグラシは鳴き止み、水の音だけが聞こえる。息苦しいほどの沈黙の後、南原さんは下を向いたまま呟いた。

「何かあつた？ 酷い顔」

思わず顔に手をやつた。

南原さんが笑つた。「なんにも付いてないよ」と言いながら。よぶんな肉がそぎ落とされているせいか、笑うと目尻に皺が寄る。

「頑張つてる？」

「はい」

「皆が羨ましがつてた。倉本は高瀬先生に可愛がられてるって……」

意外な言葉をかけられ、返答に困つた。苛められているの間違いじゃないか？

「高田……葉が、今日はタイムを縮めた」

はつとする。

瑞希にばかり気を取られていたけど、葉が十分三十秒台を出したと言う。体が震えた。

⑥くだらない事で落ち込んでいる場合じゃないと気付いて——。

南原さんが体の手入れを再開していた。足の指には絆創膏が巻かれ、一枚ずつ外されてゆく。マメが潰れ、血が滲んでいるのが痛々しい。

今日の南原さんはベストコンディションではなかつた。三〇〇〇メートル走でタイム

が伸びず、瑞希と同時にフィニッシュした。走り終わった後に眉をしかめていたのが印象に残っている。

⑦ 胸がぎゅつと締め付けられる。

——今、きついんだ、南原さん。

新しい絆創膏を貼るのを手伝おうと手を伸ばしかけ、思いとどまった。丁寧にマメをチェックする南原さんの横顔は、他人の手伝いを必要としていない。

その静かな佇まいを見るうちに、歩も落ち着きを取り戻した。自分の肉体だけで戦う人の、あるべき姿だと思った。

⑧ ——負けるな。自分に負けるな。

何度も、その言葉を繰り返した。

(蓮見恭子「櫂を、君に。」による)

(1) ——線部①「おこがましい。」の意味として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 相手のことを気づかえず失礼だ。
- イ 自分の力をわきまえず生意気だ。
- ウ 相手との差が大きすぎて不可能だ。
- エ 自分で解決するのは難しくむだだ。

- 7 -

(2) ——線部②「自分の中で何かが切り替わり、制御できない。」とありますが、この部分に関する次の二つの問いに答えなさい。

(A) 「切り替わり」とありますが、どのような自分からどのような自分に切り替わったのですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 苦しい合宿を投げ出して楽になることを望む自分から、困難を避けてしまつてよいのかどうかまよう自分に切り替わっている。

イ 暑さにたえながら一人で練習にはげむ自分から、つらさに背を向けて先輩に気づかしてもらうことを願う自分に切り替わっている。

ウ 他人との実力差を認めることから逃げていた自分から、自分の無力さと向き合つて受け入れようとする自分に切り替わっている。

エ 仲間比べて劣っていることをよくよ思いなやむ自分から、もうどうでもいいという投げやりな気持ちでいる自分に切り替わっている。

(B) 「制御できない。」とありますが、このあと、「制御」したことが分かる歩の行動をふくむ一文のはじめの五字を文章中からぬき出さない。

(3) ——線部③「その時、辺りの景色が、灰色のベールをかけたように暗くなっているのに気付いた。外灯もなく、木々が作る薄墨色の影のせい、道も狭くなったように見える。」とありますが、この表現についての説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 比喩を用いながら周りの神秘的な情景を豊かに表現することで、歩が不思議な感情に支配されてしまっていることを表している。

イ 色合いの変化を強調して周辺の様子を描くことで、他選手とは比較にならないほど記録が悪いことを気にする歩の心情を表している。

ウ 暗さに関する表現を立て続けに並べて周りの様子を表現することで、これまでの歩の陸上部での苦勞が大きかったことを表している。

エ 不気味な色合いの光景を細かに描くことで、我に返った歩が時間の経過に気づき、自分の置かれた状況を自覚したことを表している。

- 8 -

(4) — 線部④「急きたてるように、ヒグラシが激しく鳴いている。」—— 線部⑤「いつの間にかヒグラシは鳴き止み、水の音だけが聞こえる。」とありますが、この二つの文から読み取れる歩の心情の変化の説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 周囲の虫が立てる音におびやかされて取り乱していた歩が、南原さんとのぐうぜんの出会いから、落ち着きを取りもどしてきている。
- イ 不気味な場所から逃げだそうとあせっていた歩が、南原さんとめぐり会えて我に返り、前向きに自分と向き合っている。
- ウ 虫の鳴き声に包まれて恐怖でいっぱいだった歩が、あこがれの南原さんから直接話しかけられて、さわやかな気持ちになっている。
- エ 何もかもいやになり、落ち込んでいた歩が、理想の存在である南原さんを前にして、走ることへの興味と意欲を思い出してきている。

(5) — 線部⑥「くだらない事」とはどのようなことですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 高瀬先生から期待されず、仲間の記録ばかりとらされる上に、つらい練習が続くことに対してくじけそうになっていたこと。
- イ 南原さんと対等の力をもつ瑞希の存在を意識するあまり、身近な葉の成長を見逃していたことに気づいて気落ちしていたこと。
- ウ 南原さんや高瀬先生から認められている瑞希の実力に圧倒され、いつまでもよい記録を出せない自分をみじめに思っていたこと。
- エ 自分をかわいがってくれた畑谷さんに嫌われることをおそれて、本当の自分の気持ちと向き合うことから逃げてしまっていたこと。

(6) — 線部⑦「胸がぎゅっと締め付けられる。」とありますが、そのような気持ちになったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 選手として理想的な肉体をもち、雲の上の人だと感じていた南原さんが、実は苦しみにあたっていたことに初めて気づいたから。
- イ 道具を丁寧にあつかう南原さんらしく、念入りに身体の手入れをする姿を見て、本当の陸上選手としての意識に目覚めたから。
- ウ あこがれの南原さんが、痛みにたえて苦しい練習をしていたことを知り、努力をしていない自分のことをはかしく思ったから。
- エ 欠点のない完璧な存在だと思っていた南原さんが、誰にも知られず不調に苦しんでいたことがわかり、かわいそうになったから。

(7) — 線部⑧「—— 負けるな。自分に負けるな。 何度も、その言葉を繰り返した。」とありますが、ここでの歩についての説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 体調がよくないにもかかわらず、山の奥まで自分を探しに来てくれた南原さんのように、自分も他の陸上部の仲間を気づかえるほどの余裕を持った選手になりたいと思い、自分を高めようとしている。
- イ 後輩と同じタイムであったことを全く気にせず、いつもどおりの練習を静かにこなしている南原さんのように、自らの記録を伸ばせるかどうか集中して練習したいと思い、自分を元気づけている。
- ウ 自分だけの力で冷静に体の手入れを行い、次の戦いにのぞもうとしている南原さんのように、つらいことがあっても一人で立ち向かえる強さを持った選手になろうと思い、自分を奮い立たせている。
- エ 足のマメが痛くてタイムが伸びなくても、決して練習をやめようとしない南原さんのように、今まで以上に厳しい練習をこなして同級生に負けないタイムを出したいと思い、自分を勇気づけている。

(8) 文章中の「ヨケイ」を漢字に直しなさい。(ハネやハライなどの点画もきちんと書くこと)

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、文章の一部を削除しています。

電車の中などで小さい赤ちゃんに、じっと見つめられたことはないですか。①一度目が合うと、なかなか目をそらしてくれなくて、嬉しかったり恥ずかしかったりするものです。②いったい赤ちゃんはなにをそんなに見つめて、どんな顔を好むのでしょうか。

新生児がどちらかの顔を選択する場合、目が重要なポイントになります。目を閉じた顔よりも、目が開いた顔を好んで注目するのです。それが生後四か月になると、視線の方向に敏感になります。同じ開いた目でも、視線が合っていない顔よりも、視線が合っている顔を好みます。つまり、赤ちゃん一度目が合ってしまうと、しげしげと注目され続けてしまうというわけです。

顔と同じように視線には、生まれた時から敏感です。そして顔の読み取りの発達と同じように、③目への気づきから視線の方向の把握へと、目から受け取る内容は洗練されていきます。

視線や顔を合わせることは、赤ちゃんにとっては大切なことのようにです。視線が合っていない顔は、視線が合った顔と比べて、学習しにくいことがわかっています。脳を調べた実験からは、生後五か月の幼い乳児では、横顔を見ても顔を見る脳が反応しないことがわかっています。そこでこれまで行われてきた、赤ちゃんを対象にした実験で使われた顔を調べてみました。すると、ほぼすべてが正面向きの顔であることがわかりました。つまり、目と目を合わせる顔と視線が、赤ちゃんをひきつける最大の魅力といえるのです。

こつちを向いて視線の合った顔は、自分とのかかわりのある顔であり、意味のある顔であり、意識して把握するべき対象となるでしょう。一方で視線の合わない顔は、こちらに無関心だということで、無視してもいいものとなるのかもしれませんが。

赤ちゃんに会う機会があったら、ぜひ試してほしいことがあります。赤ちゃんを見つめることによって、あるいは目をそらすことによって、赤ちゃんはどのような変化を見せるでしょうか。私たちが無意識のうちにする視線への反応、それは赤ちゃんにも備わっているのでしょうか。

赤ちゃん時代から、視線のやりとりは積極的に学習されて発達していくのです。お母さんも赤ちゃんに應對することによって、親子は一緒に発達していくのです。④ある意味で赤ちゃんは、周りの大人たちを導き、親へと成長させる力を持っているのです。

ぜひ機会を見つけて、赤ちゃんと対面してほしいと思います。赤ちゃん初心者に向けて、「赤ちゃんパチパチ目合わせ遊び」を考案したことがあります。これは、表情をつくるのが恥ずかしかったり、育児に疲れて表情をつくるのが面倒になっているお母さん

でも、目をパチパチ開けたり閉じたりすると、目をキョロキョロさせて横を見たり前を見たりするなど、簡単なしぐさをつくりながら赤ちゃんをしつかり観察していくというもので、赤ちゃんとのコミュニケーションを学ぶことができます。コミュニケーションの原点を考える上でも、子育てを考える上でも、学びの場となる遊びのひとつとなります。

④お母さんと赤ちゃんは、みな仲が良さそうにみえます。生まれてずっと一緒にいると、自然と仲良くなるのでしょうか。

生まれてからの赤ちゃんとお母さんの行動を丁寧に観察した研究から、意外なことがわかってきました。赤ちゃんとお母さんは、生まれつきウマが合うわけではないのです。

赤ちゃんがお母さんの目を見る時間と、お母さんが赤ちゃんの目を見る時間を、生まれた直後から観察すると、発達的な変化がみられたのです。赤ちゃんの注視時間だけでなく、お母さんの注視時間も、だんだんと長くなっていったのです。赤ちゃんの発達は先に説明した通りで、視線の発達とともに、新生児の開いた目への好みから、視線の合った目へと、視線を見る感度も高まり、自然と目を見る時間は長くなっていくのです。

それに合わせてお母さんも発達することが、データの中からわかったのです。赤ちゃんの目を追うスキルがアップしていくのです。お母さんは、最初からお母さんになれるわけではなく、子育てしていくうちに赤ちゃんになっていくのです。

自分のほうをぼんやりと見ていた赤ちゃんが、自分の目をしっかりと見てくれるようになる、そんな変化が子育てのご褒美となつて、お母さんのやる気を湧き立たせるのです。そしてだんだんと、赤ちゃんとお母さんの息は合っていくのです。

ところで、このご褒美を、うまく受け取れないお母さんもいます。子育てに疲れたり、子育て以外のことに忙殺されたりと、理由はさまざまありますが、本人の資質というよりはその時の状況の方が大きいようです。

特に子育ての疲れは、誰もが直面する問題ともいえます。産後のホルモンバランスの変化から、うつ状態になるのはよくあることだからです。忙しいお父さんや、知り合いのいない場所での孤立した子育ての環境は、お母さんを追い込んでいくことにもなりましよう。この時期に赤ちゃんの視線をうまく受け取ることができないと、息が合うきっかけを失うことにもつながるのです。こうした小さなつまづきは、いたるところで起きている可能性があります。もちろん、子育ての役割はお母さんに限りませんし、誰でもお母さんの代わりに成長できるのです。子育てには、周囲の環境が大切なのです。

赤ちゃんを産んだらそのまま親になれる——そんなわけではないことがわかりました。赤ちゃんとのやり取りの中で、親も成長するのです。もちろん、親の成長は赤ちゃん時代に限られるものではありません。みなさんの親も、今でもみなさんと一緒に、成長を続けていることでしょう。

赤ちゃんの話に戻ると、親子の視線は、コミュニケーションの大切な土台となることがわかっていきます。これまでみてきた赤ちゃんの視線の読み取りは、単に開いている目やこつちを見ている目に注目するだけで、私たちの視線の読み取りと比べると、幼稚に思えます。

私たち大人にとって、視線にはたくさん意味が込められています。見つめられてドキツしたり、なんらかの意図を感じたり、さまざまな感情を伴います。視線に意図を読み取ることは、いつ頃からできるのでしょうか。親子で行き交う視線の巧みなトレーニングが、そこにあるようです。

新生児には意図を読み取る術はありませんが、一歳になるよりも早く、生後一〇か月頃からすでに、相手の意図らしきものを読み取るようです。言葉を話すようになるのが一歳半から二歳頃であるのと比べると、会話をするよりも以前に、相手の意図がわかるのです。それはとても早い発達ともいえましょう。

生後一〇か月の赤ちゃんは抱っこされているお母さんの顔を覗き込み、その顔色をうかがって、自分の行動を決めることが実験からわかっています。ガラス板の下に崖が見える怖い場所に座らせても、お母さんが微笑んでいるとそのまま崖の上に渡されたガラス板の上を進んでいきます。ところがお母さんが怖い顔をしていると、進まずにその場に留まったのです。お母さんの表情から、^⑤自分の状況を判断することができたのです。では、赤ちゃんの注意が、お母さんの目から離れて外界へと移るのは、いつ頃でしょう。

生後六か月になると、注意は視線の先へと進むようです。相手が見ている対象を気にしだすのです。赤ちゃんの興味の対象は、目そのものではなくて、目から離れていくのです。^⑥それは動物から人への進化を示すような、劇的な変化ともいえましょう。

目から先の世界には、少しずつ進んでいきます。まずは「共通理解」の場へと進みます。生後九か月頃になると、親と子とで互いにひとつの物を見つめ合うようになるのです。お母さんの視線の先に注目し、そこに新しい玩具があったりお菓子があつたりするのに気づき、その対象を確認しあうことができるのです。ひとつの世界を互いの視線によつて共有することは、人間だけが持つ共通の認識世界を生み出すこととなります。これもさらなる進化の予感を感じさせる行動です。

やがて「視線の先」から「指の先」へと、認識世界の共有は移行します。指さしを通じて、一つひとつの物体を互いに確認しあい、「これがお母さん」「これがマンマ」と、言葉を教えることができるのです。人類だけが持つ「言葉」の獲得へとつながっていくのです。言葉の通じなかった赤ちゃん時代の終わりが近づく兆候です。

目は自身の器官を通じ、外界に自分を広げる窓のようなものかもしれません。赤ちゃんは母親との視線の共有によつて、自分だけの閉じられた世界から脱却し、他者と共有した世界に発達していくようです。言葉を含めたコミュニケーション能力の獲得には、とにかくまずは視線や目が、大切な役割を果たしているということでしょう。そうであれば、あなた自身の視線が他者に開かれているかを知ることが、大切なことかもしれません。

(山口真美『自分の顔が好きですか? ——「顔」の心理学』による)

注 *1 忙殺……非常に忙しいこと。

*2 資質……生まれつきの性質や才能。

*3 ホルモンバランスの変化……身体組織や器官を調整する物質(ホルモン)の一部が多くなったり少なくなったりすること。

*4 兆候……何かが起こる前ぶれ。

(1) ——線部①「一度目が合うと、なかなか目をそらしてくれなくて、嬉しかったり恥ずかしかったりするものです。」とありますが、赤ちゃんはなぜ目が合うとなかなか目をそらしてくれないのですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 赤ちゃんは、初めて会った人を意識して覚えようとするから。
イ 赤ちゃんは、視線が合っている人の顔を好んで注目するから。
ウ 赤ちゃんは、自分を見てくれている人を喜ばせようとするから。
エ 赤ちゃんは、視線が合っている人を自分の母親だと考えるから。

(2) —線部②「目への気づきから視線の方向の把握へと、目から受け取る内容は洗練されていきます。」とありますが、ここでは赤ちゃんのどのような発達について説明していますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 相手の顔をぼんやりと見ていただけだった赤ちゃんが、自分を見てくれているかに興味を持つようになること。

イ 相手がどこを見ているかを確かめるだけだった赤ちゃんが、自分に向けられた視線に反応するようになること。

ウ 目が合う人をしげしげと注目するだけだった赤ちゃんが、視線が合う相手の顔を学習していくようになること。

エ 周囲の人々と視線を交わしているだけだった赤ちゃんが、相手が大切な人かどうかを見きわめるようになること。

(3) —線部③「ある意味で赤ちゃんは、周囲の大人たちを導き、親へと成長させる力を持っているのです。」とありますが、この部分に関する次の二つの問いに答えなさい。

(A) 「親へと成長」することを、この文章ではどのようにとらえていますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 赤ちゃんの視線が合わなかった母親が目の合わせ方を学んでいくこと。

イ 赤ちゃんの気持ちを合わせてコミュニケーションできるようにすること。

ウ 赤ちゃんの遊びながらしつかりと観察することができるようになること。

エ 赤ちゃんとの接し方がわからない初心者が子育ての方法を学んでいくこと。

(B) 赤ちゃんのどのような変化が「周囲の大人たち」を導くのですか。それが書かれた部分を文章中から四十字以内で探し、はじめとおわりの五字をぬき出しなさい。

(4) —線部④「お母さんと赤ちゃんは、みな仲が良さそうにみえます。生まれてずっと一緒にいると、自然と仲良くなるのでしょうか。」とありますが、お母さんと赤ちゃんが仲良くなるためにはどのようなことが大切ですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 孤立した環境にお母さんを追い込まないようにすることで、お母さんがあまり子育てに関わらなくてもよいようにすること。

イ お母さんが子育て以外のことをしないようにすることで、赤ちゃんとお母さんの息を合わせる時間を確保するようにすること。

ウ 周囲の人々がお母さんを支えるようにすることで、お母さんが安心して赤ちゃんとの視線のやりとりをできるようにすること。

エ お母さんが忙しい中でもなるべく赤ちゃんの目を見るようにすることで、赤ちゃんの視線を見る感度を高めるようにすること。

(5) —線部⑤「自分の状況を判断する」とありますが、ここではどのような判断を行うことをいうのですか。それを説明した次の文の□に入る言葉を十五字以上二十字以内で答えなさい。

□を判断すること。

(6) —線部⑥「それは動物から人への進化を示すような、劇的な変化ともいえましよう。」とありますが、赤ちゃんの興味が目から離れることがどうして「動物から人への進化を示すような、劇的な変化」といえるのですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 指さしを通じて一つひとつの物体を確認し、その名を覚えていくことで、言葉の通じなかった赤ちゃん時代を終えることができるから。

イ お母さんの視線の先にあるものを互いの視線によって共有することで、お母さんと共通の認識世界を生み出していくことができるから。

ウ 視線の先にあるものを他者と共有し、さらに指さした先のものを確認しあえるようになることで、言葉を獲得していくことができるから。

エ 他者の視線に込められた意味を読み取れるようになることで、自分だけの閉じた世界から脱却し、外界に自分を広げることができるから。

国語 解答用紙 (平成二十九年 度)

【三】				
(6)	(5)		(3)	(1)
			(B)	
			は じ め	
				(2)
				(3)
				(A)
			お わ り	
			(4)	

		[]
	(4)	(1)
	(5)	(2)
		(A)
	(6)	
		(B)
		- - - - -
	(7)	
		- - - - -
		- - - - -
		(3)
(8)		

三		
(2)		(1)

※記入しないこと

受験番号	
------	--

(国語)